

尾瀬国立公園

公園区域の指定及び公園計画の決定



この資料中の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図及び2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平20兼複、第67号)

1

地域の概要 I

◇位 置

福島県、栃木県、群馬県及び新潟県の県境



地域の概要Ⅱ

◇地形・地質

尾瀬沼(180ha)
と尾瀬ヶ原
(760ha)を2000m
級の山々が囲む。

<凡例>



尾瀬国立公園区域(案)



日光国立公園区域



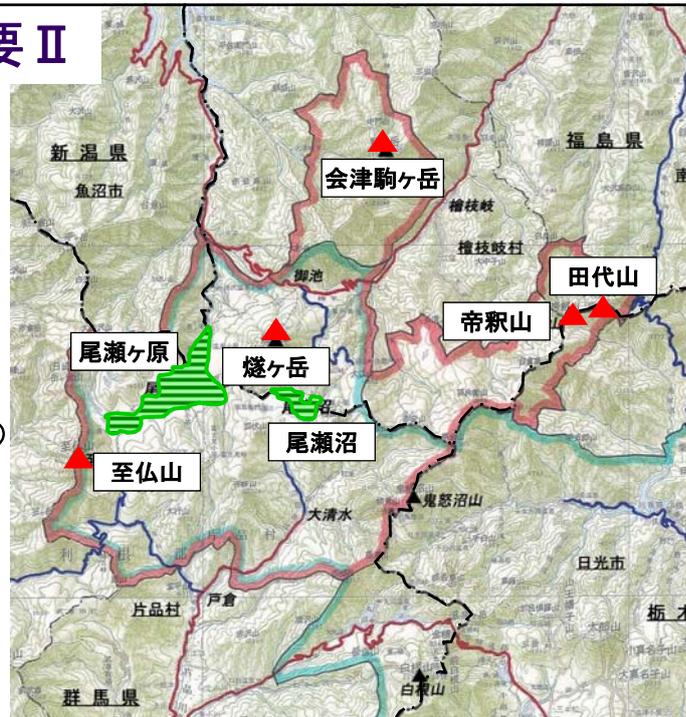
県境



国道



主要道路



地域の概要Ⅲ

◇植生、野生生物

- 北方系／南方系、太平洋型／日本海型の多様な動植物相
- ブナ(山地帯)、オオシラビソ、ダケカンバ(亜高山帯)、ハイマツ(高山帯)、湿原植生
- ツキノワグマ、カモシカ等の大型哺乳類も生息

◇利用の現況

利用期間：5月中旬～10月下旬、春(ミズバショウ)、旧盆(夏休み)、紅葉の季節に集中
利用者数：64万人(H8年度) → 現在30万人台前半で推移
主な入山口：鳩待峠(群馬県)5割強、沼山峠(福島県)3割弱

◇土地所有別面積および関係市町村

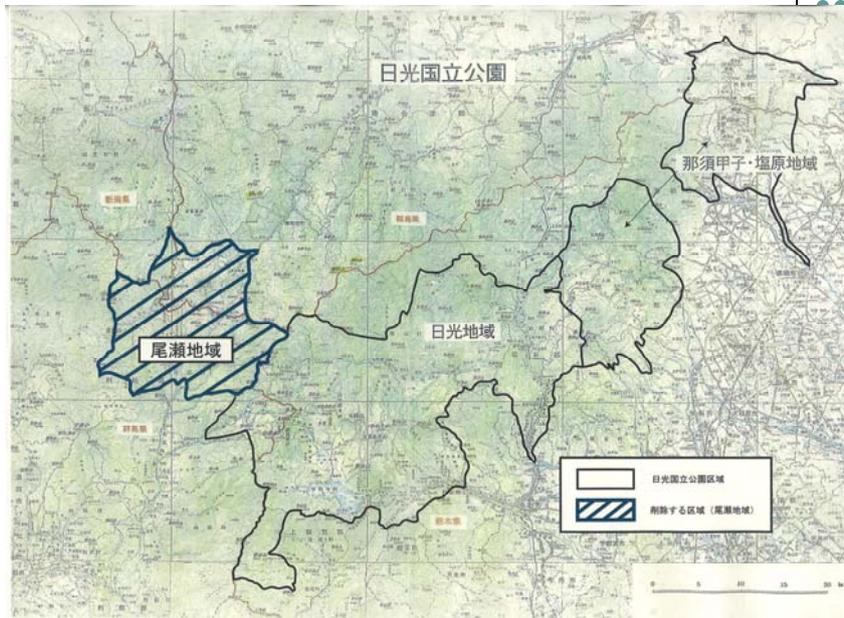
国有地：54.6%(20,312ha) 公有地：0.5%(184ha) 民有地：44.9%(16,704ha)
福島県：南会津町、檜枝岐村 栃木県：日光市 群馬県：片品村 新潟県：魚沼市

◇産業

基盤は農業だが、観光依存度が高い



現日光国立公園との位置関係



5

経緯

◇公園区域の指定

・昭和9年 12月4日

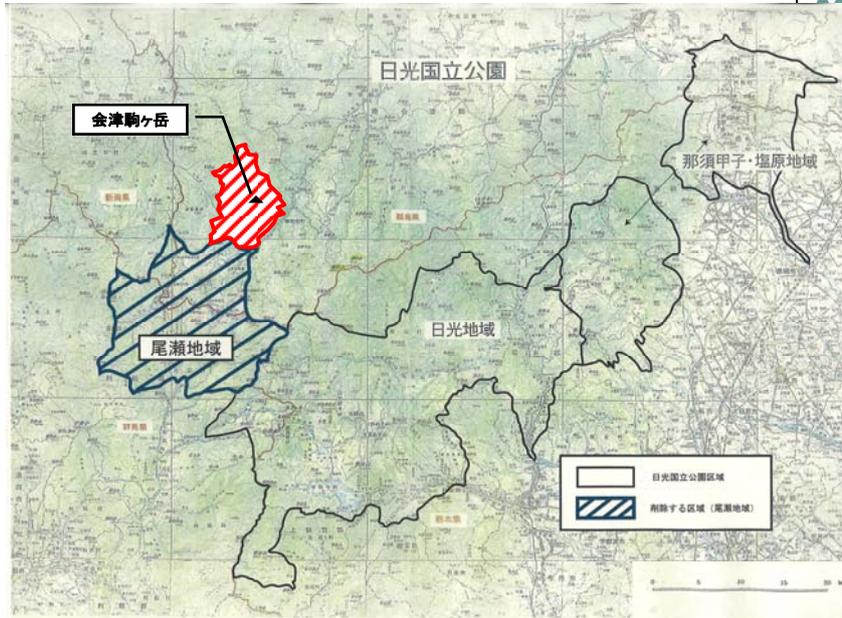
◇自然公園審議会

・国立公園の体系整備についての答申
(S46.11.19付自審第8号)

『会津駒ヶ岳と帝釈山の地区を日光国立公園に
編入することを適当と認める』

6

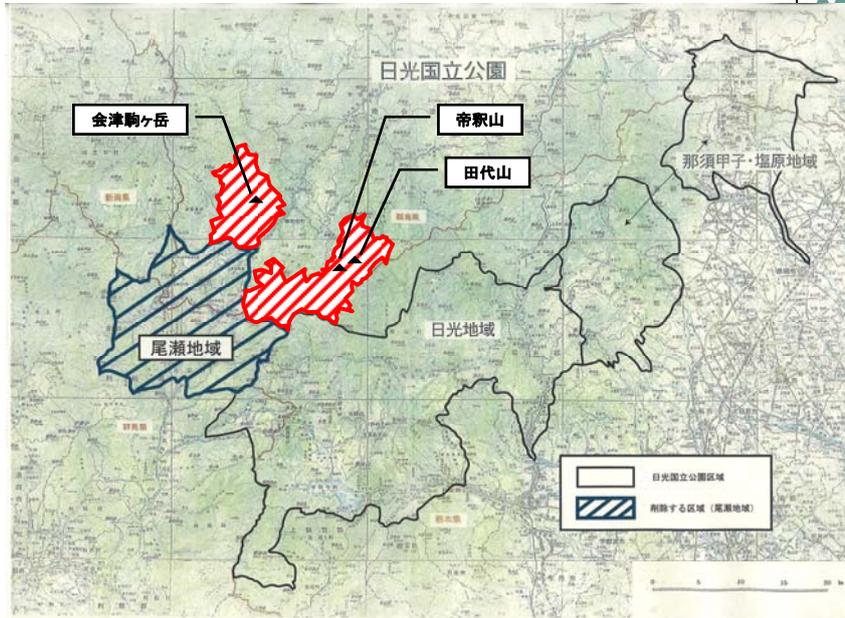
現日光国立公園との位置関係



7



現日光国立公園との位置関係



9



自然環境の共通性



中門岳(山頂付近)



尾瀬ヶ原



田代山(山頂部)

11

利用状況



ハイキング(鳩待峠付近)



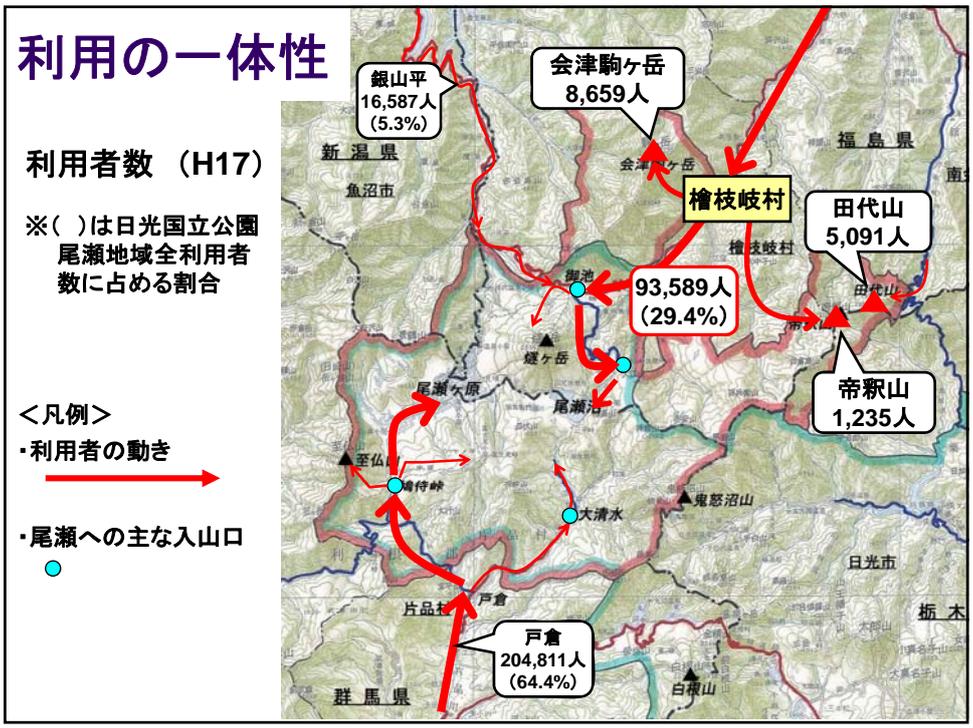
登山(会津駒ヶ岳)



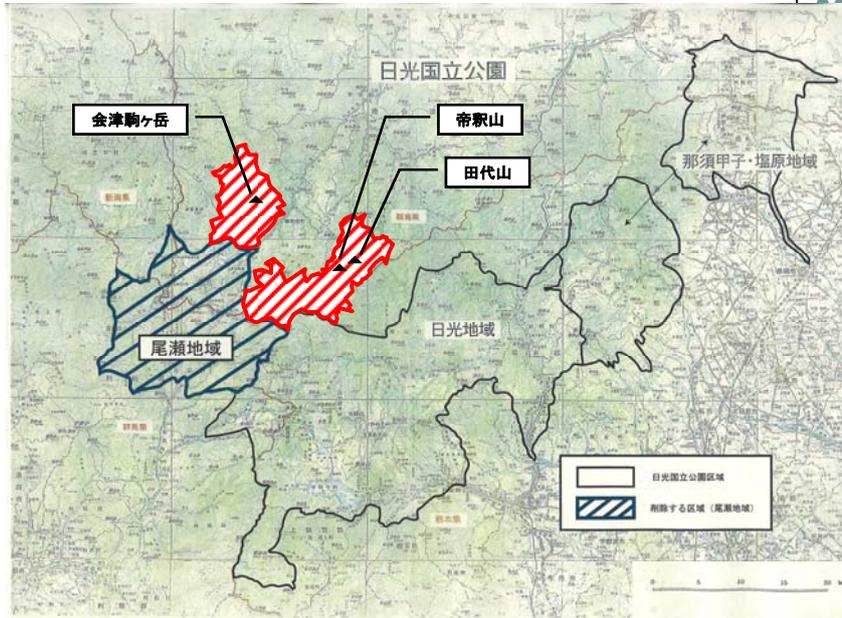
自然探勝(尾瀬ヶ原)



自然探勝(田代山山頂付近)



現日光国立公園との位置関係



15

公園区域の概要

◇面積(陸域)

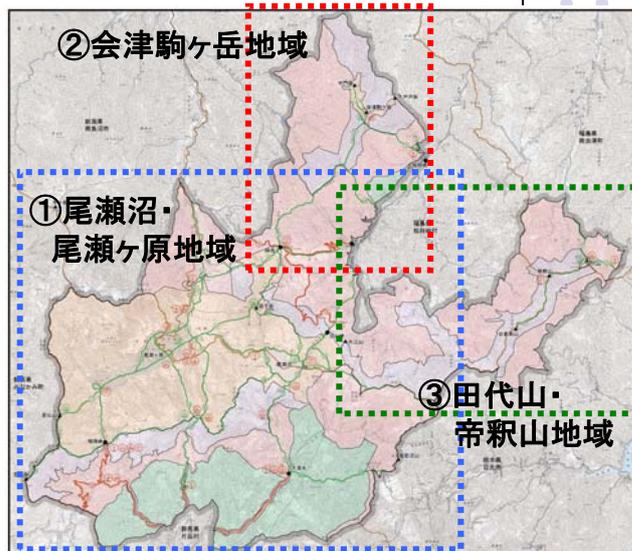
37,200ha

①尾瀬沼・尾瀬ヶ原地域
:25,203ha

(日光国立公園尾瀬地域)
尾瀬沼、尾瀬ヶ原をはじめとする大小の湿原を2km級の山々が囲む。

②会津駒ヶ岳地域:5,435ha
山頂一帯が草原に被われ湿原が点在する。

③田代山・帝釈山地域
:6,562ha
田代山山頂部には世界的にも稀とされる単一の台地上湿原(約20ha)を有する。



16

公園計画の基本方針Ⅰ

【規制計画】

特別保護地区 …… 特徴的な景観を厳正に保護

①尾瀬沼・尾瀬ヶ原地域

・尾瀬沼、尾瀬ヶ原等の日光国立公園尾瀬地域の特別保護地区を踏襲

・燧ヶ岳の湿原、自然林

②会津駒ヶ岳地域

・会津駒ヶ岳、中門岳の山頂部の湿原、雪田植生

③田代山・帝釈山地域

・田代山山頂部の湿原、雪田植生

第1種特別地域 特別保護地区と一体となった景観を構成する優れた原生的森林等

第2種特別地域 重要な利用拠点の周辺及び良好な自然林

第3種特別地域 人工林を主体とした地域

指 定 湖 沼 尾瀬沼、尾瀬ヶ原

17

公園計画の基本方針Ⅱ

【施設計画】

保護施設計画

◇植生復元施設

過去の過度な利用などによる湿原・高山植生の損傷箇所の保護と復元を図る

利用施設計画

既存計画のうち必要性や事業化の可能性が低い施設は、計画に位置づけない。

◇集団施設地区：利用の実態や必要性等の観点から位置づけるとともに、区域の明確化を行う

◇単 独 施 設：利用実態から見て必要性が認められる施設

◇車 道：入山口等までのアプローチとして現存、利用されている車道

◇歩 道：登山道や散策路として現存、利用されている歩道

18

公園計画の概要 I



①尾瀬沼・尾瀬ヶ原地域(北部)

【地形】

燧ヶ岳(2,356m)、尾瀬沼(180ha)、尾瀬ヶ原(760ha)

【植生】

ブナ(山地帯)、ダケカンパ・オシラビソ・ウレ(亜高山帯)、ハイマツ(高山帯)、湿原植生、お花畑

【動物】

ツキノワグマ、カモシカ、ニホンジカ
トホ類(北方系全17種)

【利用】

自然探勝、登山、ハイキング

